

故 松本 理君を偲ぶ

2017. 6. 9 関根幸生

去る3月21日に亡くなられた松本 理さんを偲ぶ駄文です。ご一読し、生前の彼を思い起していただければ幸いです。

写真は1998年頃松本理、勝田匡俊、伊台務さん（当時三人は丸善石油化学）が私の駐在していたシンガポールを經由し、マレーシアのTioman島に観光旅行した折にシンガポール市内のレストランで撮ったものです。



想えばこの写真を撮った翌日、ローカル空港（Seletar Air Port）から登場手続きも済んでまさにTioman島に行き飛行機に乗ろうとした時に松本君の母堂（だったと思う）危篤の報があり松本君無念の帰国となった次第です。

あの海好きだった松本君をTioman島の珊瑚礁に連れて行ってやれなかった事は、かえすがえす残念です。

この彼のシンガポール来訪時、彼の歩く後ろ姿を見て気のせい何かしっくりしないなと感じたことを記憶します。想えばこの頃からパーキンソン病の兆候があったようです。私の帰国後、彼の家が近いので時々様子を見に行っていたのですが、少しずつではあったが症状が進んでいる印象はありました。

ここ数年は会っていなかったのですが葬儀の時奥様から伺ったところでは昨年12月に肺炎を併発入院し、そのまゝ亡くなったとのことでした。

最後まで頭脳の衰えは全く見えず入院する迄は体を動かすのは不自由ながら何でも自力でやろうとの気力に少しも衰えはなかったとのことでした。

松本君との思い出といえば、これも忘れられないことです。入社数年後二人共下津の拝待寮にいた頃、一年遅れ入社の人M・Y君と3人でなけなしのボーナス（一時金だったか？）全額はたいて3～4人乗りボートと2.0馬力の船外機のセコを買いました。ボート屋のあった和歌浦の小さな港から3人で、そのボートに乗り夕暮れの和歌浦から下津港目指して航海？した事は今も鮮明に憶えています。ボートは“Neptune”と名付けサザエ、アワビの密漁？に活躍しました。

こうして松本君のことを憶いおこしていると生前彼との会話の中で彼をひやかしたりした時「本官を愚弄するのであるか」と言って、いたずらっぽくニヤリと笑う姿が懐かしく憶い出されます。

理さん、やすらかに 合掌